

令和6年度				こども園関係者評価書		堺市立宮園こども園	
教育・保育理念		令和6年度重点目標		評価の基準 A・・・達成している B・・・おおむね達成している			
・自分も友だちも大切にする心の育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮							
園の重点目標							
・保護者ととともに、一人一人の子どもの人権を尊重し、子どもが主体となり夢中になって遊ぶことを大切に教育・保育を行います。							
重点目標	重点目標に向けた具体策	評 価 項 目		自己評価		こども園関係者評価	
主体的に生きる力を育てる	人権を尊重したかかわりの中で自己肯定感を育て、興味関心のある遊びに夢中になり主体的に遊ぶ	・保育教諭とのかかわりを通して愛着関係を育み、意欲的に生きていく力につなげる。 ・子どもの発達過程に応じ、個人差に配慮しながら思いをうけとめ、自尊感情を育てる。 ・『みんなちがってみんないい』とお互いの事を認め合い、共に育ちあうクラスづくりを行う。 ・家庭と連携し、こども園が子どもにとって安心できる居場所となるよう努める。 ・集団生活においてルールを守ったり、自分の気持ちや感情をコントロールする力を育てていく。 ・子どもの興味・関心に気づき、子どもが夢中になり遊びこめる環境を整える。 ・子どもの意欲や探求心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にする。 ・実体験を通して『みたい』『知りたい』『やってみたい』『なんでかな』と感じ主体的に遊ぶ。		A	乳児は育児担当制により特定の大人との愛着関係を築き、こどもの発達や季節に合わせた環境を整え、こどもが意欲をもち遊びを楽しめた。こども一人一人の素直な気持ちを受け入れ安心につなげた。幼児は『みんなちがってみんないい』を基本の考え方とし、みんなで楽しめる、みんなでできることを中心に教育・保育を展開した。遊びや活動を繰り返し行うことで『できる』自信と意欲的に挑戦する心を育てた。CAPA人権講座や助産師による『命の授業』、また日々の関わりを通して、ありのままの自分が大切な存在であるというメッセージをこどもへ伝えた。集団遊びや生活の中で年齢に合わせルールを知らせ、ルールを守ることでもみんなが気持ちよく過ごせることを伝えた。園庭のピクトープや草花コーナー、秋に設置したどんぐりコーナーは自然物に触れる機会となり、数を数える、遊びに取り入れる、図鑑で調べる等こどもの実体験を通して興味・関心が広がった。	A	自尊感情を育てることは今のこどもたちには特に大切であり、一人一人を大切にしたい保育を行っている。命の授業等、園で実施していることは小学校の人権教育のねらいの一つにもつながる。園で過ごすこどもの姿がいつものびのびとしていて保育教諭がこどもがやってみようと思う声掛けをしている。これから『見たい』『知りたい』『やってみたい』『なんでかな』と思える経験や取り組みを増やしてほしい。
				A		A	
				A		A	
				A		A	
				B		B	
				A		A	
				B		A	
				A		A	
家庭と連携し、基本的な生活習慣を整える	子どもの姿から規則正しい生活リズムの大切さを保護者に根気よく伝え、連携しながら基本的な生活習慣が身につくようにする。	・一人一人の家庭状況を把握し、園児が安定して心地よく過ごせるようにする。 ・家庭環境や保護者のニーズを理解し、ともに子育てしていく視点をも信頼関係を築いていく。 ・保護者自らが子育て力を向上できるように助言し、親子がよい関係で向き合えるよう支援する。 ・保護者へ基本的な生活習慣の大切さを伝える機会を作り共に考える姿勢で保護者と寄り添っている。		A	送迎時に顔を見て保護者と会話をすることでこどもの様子を伝えあうことを大切にしたい。『今日も楽しい、明日も楽しいから登園する』につながるようにクラスからの毎日の教育・保育の様子とあわせて午前中の園の様子等もキッズビューで不定期に配信した。また5歳児保護者へ宮園小学校長より育児講座を行い基本的な生活習慣の大切さを伝えた。	A	毎日、こどもの登園が続くことを園として意識して地道に取り組むことは大切でこれからも続けてほしい。こどもも保護者もみんなが安心して園に通えるような言葉がけを全職員で実践してほしい。教育・保育のねらいやこどもの様子を知らせることが保護者の安心につながる。
				A		A	
				B		A	
				A		A	
保幼小が連携し、子どもの健やかな育ちと学びをつなげていく	幼小と交流をもち、それぞれの立場からの教育方針等を交流すること、子ども達の健やかな育ちにつなげていく。	・小学校児童との交流や小学校教員との意見交流等、連携を通して教育・保育の質の向上をはかる。 ・一人一人の園児の育ちについて、小学校と情報の共有をし、円滑な接続に繋げる。 ・乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し実践する。		B	各年齢において就学以降の学びに向かう力を意識した計画に沿って教育・保育を行い、異年齢児とつながることも大切にしてきた。宮園小学校とは5歳児が児童との交流を行い、職員は体育参観を見学したことで小学校の様子を知る機会となった。	B	小学校の児童もこども園との交流を楽しみにしている。小学校との交流が増えると保護者は安心。園から小学校へとスムーズな接続ができる交流を望む。
				B		B	
				A		A	
地域に根差した(子育て拠点)こども園をめざす	園庭開放やほっと預かり、リブレッシュ預かりに來られた方や地域に出向いた時に、こども園で取り組んでいる子育て支援事業をPRしたり、積極的に声をかけ、子育ての相談にのっていく。	・地域の関係機関や団体等と連携し、協力を図り、適切な子育て支援をおこなう。 ・地域の方へ情報提供を行い、共に子育てを進めていく。 ・園の機能や職員の専門性を活かした子育て支援を行う。 ・地域子育て支援事業を通して保護者の育児に対する負担感の軽減を図り共に子どもの成長を喜び合う。		B	地域の老人会、お話し会、原池公園事務所の方との関わりはこどもの心が豊かになる機会となった。地域の子育て家庭には家庭支援担当者が地域へ出向き、園内では園庭開放、ほっと預かり、保育体験を実施したが利用者は少なかった。少子化が進む中での地域支援については社会情勢を見ながら内容の検討も必要と感じる。	A	老人会や出前講座など職員以外の人のかかわりはとても大切だと思う。地域と交流することで地域のことを好きになってほしい。幼い頃からいろいろな方にかかわる機会があることはこども自身が大切にされることにつながる。
				B		B	
				B		B	
				B		B	
職員の資質向上をめざす	研修や会議、委員会、自己評価、情報交流等で専門性を高める。	・研修等を通じ専門性や倫理性の向上に努めるとともに、自己研鑽を積極的に行う。 ・職員同士の交流や情報交換を円滑に行い、園児の学びと育ちをつないでいく。 ・理念や方針、教育・保育課程や指導計画について、職員同士が共通理解する。 ・教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して質の向上を図っていく。		B	園内研修では保育環境について学びを深め、園庭の自然環境や室内のままごと遊びを中心に環境づくりを実践した。その他、経験年数に合わせた研修に参加することで得た知識や技術を活用した。日々の教育・保育は指導計画やドキュメンテーションを題材に担任間で振り返りを行った。	B	経験年数に合わせた研修や園内研修の取り組みはよい。職員の資質向上として、こども及び保護者に対する言葉がけについて職員研修等で学び実践に活かす。
				A		A	
				A		A	
				A		A	
今後の取り組むべき課題							
課題		具体的な取組方法		園長より			
基本的な生活習慣を整え主体的に学ぶ力(やってみようと思う気持ち)を育てる。		・保護者と連携し家庭状況を把握した上で、毎日登園することが就学に向かう力となることを発信する。 ・夢中になって遊ぶ環境を整え『今日も楽しい』『明日も楽しい』と思える教育・保育を実践する。 ・育児講座、懇談の場で生活習慣について話をする。		今年度もたくさんのご協力をありがとうございました。今年度は園庭のピクトープなど自然環境を整え、夢中になって遊ぶ中で学びに向かう力を育てることを大切にしてきました。次年度も『今日も楽しい』『明日も楽しい』教育・保育を毎日実践し、キッズビューの活動記録(ドキュメンテーション)を通して園の様子を保護者の方へお伝えしていきます。保護者のみなさん、地域のみなさんの力をお借りしながら、宮園こども園での生活やこどもの心が豊かになる経験を大切にしていきたいです。次年度もどうぞよろしく願っています。			
地域の小学校との連携。		・職員が架け橋期のカリキュラム開発会議に参加する中で小学校との接続について検討を行い、交流を図る。(授業見学、公開保育の実施など) ・地域の小学校と5歳児が交流を行う。					